

高校総体第3位 夢の国立競技場目指して

猪瀬 司さん (3年生) 峰町
本間央将さん (3年生) 石田下坪
増淵悠大さん (2年生) 上文挟
早川雄基さん (2年生) 並木
永岡宏樹さん (1年生) 上町

第85回全国高等学校サッカー選手権大会に出場した県立真岡高等学校サッカー部のメンバーにお話を伺いました。今大会には、上三川中学校出身の猪瀬司さん、早川雄基さん、永岡宏樹さん、本郷中学校出身の増淵悠大さん、明治中学校出身の本間央将さんの5名が出場しました。

チームは2年連続で選手権大会に出場し、県内の公式戦は、負けなしの4冠(新人戦、関東大会予選、高校総体予選、選手権予選)を達成。昨年6月に開催された関東高等学校サッカー大会では第3位。8月の高校総体でも第3位と、全国的にも並居る強豪校のひとつとして出場しました。全国大会へ向けての抱負を尋ねたとき、猪瀬さんは「最後の大会なので思いつきりやってきたいです。」、本間さんは「前回大会では悔しい思いをしたので、初戦突破できるようにチームに貢献したいです。」、増淵さ

今月の輝ける星

んは「皆さんの期待に添えるよう頑張りたいです。」、早川さんは「出場する機会があれば、FWなのでチームのために頑張りたいです。」、永岡さんは「試合に出場できれば100%力を出し切り、チームに貢献できるよう頑張りたいです。」と意気込みを話してくれました。夢の国立競技場でのプレーを目指して行われた2回戦

屈指の好カード、昨年優勝した滋賀県の野洲高校との対戦。終始攻撃的なゲームを展開するも相手チームのフリーキックから失点してしまい、惜しくも0対1と敗れてしまいました。

新チームのキャプテンとして残る増淵さんに、今後について尋ねると、「昨年のチームは、県内では負けなかったのがないので、一戦も落とさないといい気持ちで、練習からチームの雰囲気盛り上げて頑張っていきたいです。」と力強い言葉が返ってきました。



上左から永岡さん、本間さん、猪瀬さん、下左から増淵さん、早川さん



た。ゆっくり、じっくり、酸味と甘みをその実に蓄えて赤く大きくなったトマトは、主に東京の築地市場に出荷されています。

また、近年、食の安全・安心について消費者の関心が高まっている中で、トマトの履歴をすべて記録・公開する「全農安心システム」を他の部会に先駆けて取り入れ、消費者に顔の見える野菜作りを積極的に進めています。

料理に彩りを添える、完熟したトマトの赤い色は、カロテン類の「β-カロテン」「リコピン」という色素によるものです。中でも特に注目されているのが、リコピンの抗酸化作用で、体内の組織が酸化するのを防いでくれます。

古口さんにこれからの目標を伺うと、「栽培技術を早く確立し、更に品質の良いトマトを作りたいです。また、色々な作型にも挑戦したいですね。」とトマト栽培に賭ける意気込みを熱く話してくれました。太陽の恵みを一杯に受けて育った越冬トマトは、これから出荷のピークを迎えます。

わが町の農産物



越冬トマト

今月は、冬の日照時間が全国的に有数の長さを誇る栃木県の利点を活かし、「越冬トマト」栽培に取り組むJAうつのみや越冬トマト専門部会副支部長の古口雄一さん(東蓼沼西)にお話を伺いました。

古口さんのハウスの中に入ると、ワイヤーで吊った背丈2メートルを超えるトマトの木が見事に列をなし、その枝には、赤く色づき始めたトマトがたわわに実っていました。

作付している品種は「マイロック」と呼ばれ、甘さがあり、実の締まりが良いのが特徴です。収穫は10月下旬から6月中旬にかけて行われますが、「天候や季節などの環境変化に合わせた栽培管理が最も難しい」と話す古口さん。栽培を始めて3年目の冬を迎え、消費者に喜んでもらえるおいしいトマトを生産するために、若き農業後継者の試行錯誤の日々が続いています。

いつもトマトのことを考えているという古口さんですが、「一番喜びを感じるのは収穫の時です。収穫は今までのがんばりに対する結果です。」と笑顔で答えてくれまし

